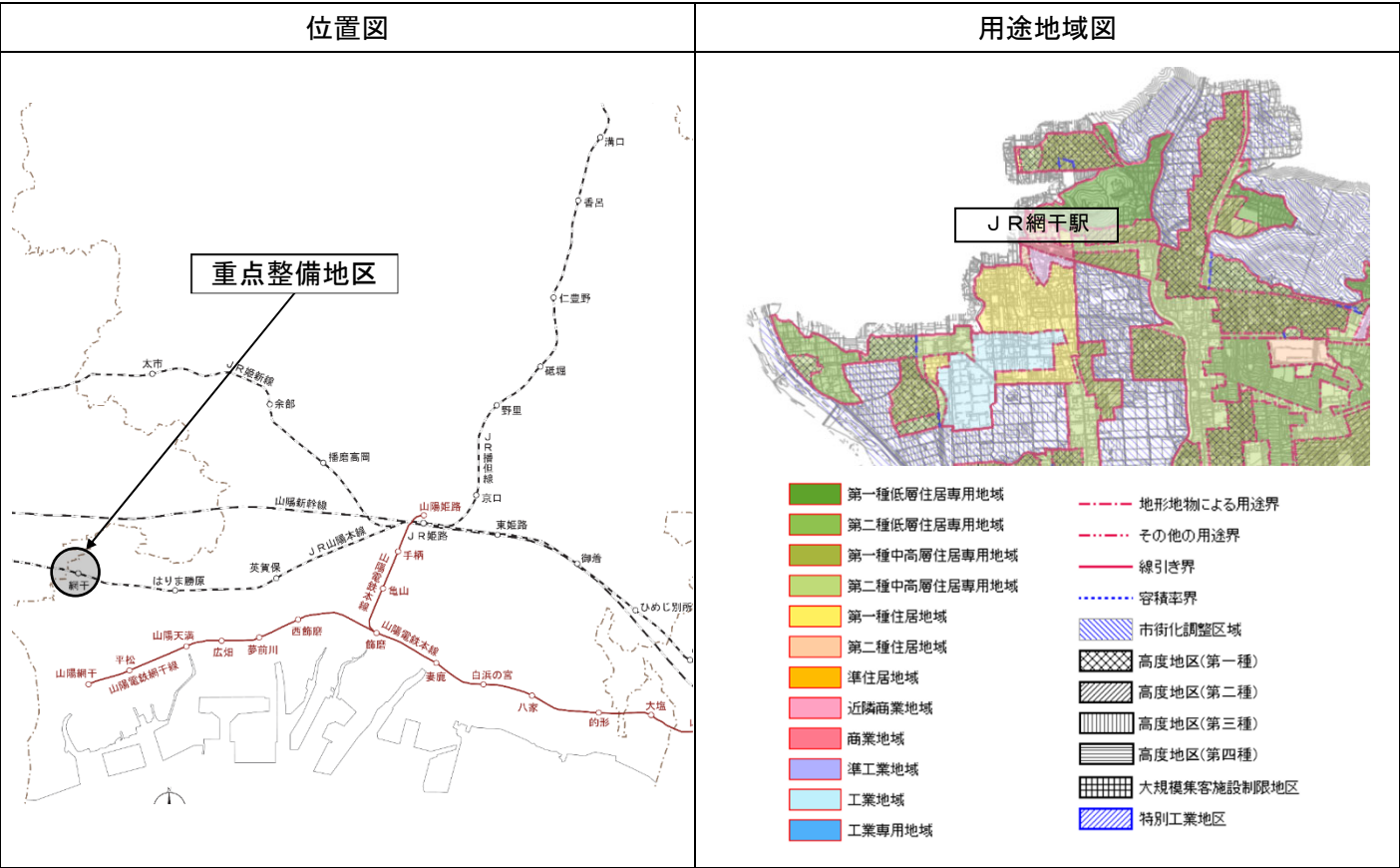


JR網干駅周辺地区【概況】



地区特性	
【データ】 (1) J R 網干駅 ① 1 日平均乗降客数・・13, 630 人/日（令和 5 年度） ② 駅の概要 ・ 構 造……………地上 ・ 駅 舎……………橋上駅 ・ ホーム……………相対式・島式 2 面 3 線 ・ 改札口……………1 ③ 駅前広場の概要 ・ 面積……………（北）2, 564㎡（事業中） （南）4, 000㎡（都市計画決定） 1, 957㎡（供用部） ④ バスバース数……………（南）4 ⑤ タクシーバース数……………（北）1 ⑥ 自由通路 ・ 橋上駅併設型 1 基 ・ 階段……………（北・南）各 1 ・ スロープ……………（北・南）各 1 ・ エレベーター……………（北・南）各 1 【地区の特性】 ・ J R 網干駅は、操車場があることから新快速電車の始発駅となっている。また、西側に太子町が隣接し、たつの市などを含め周辺市町の最寄り駅になっているため、1 日当たり乗降客数 13, 630 人（令和 5 年度（2023 年度））と姫路市内の J R 駅の中では姫路駅に次いで 2 番目に乗降客の多い駅となっている ・ 駅周辺は主に住居系の土地利用となっており、駐車場・駐輪場利用も多く見られる。 ・ J R 網干駅周辺地区は、総合計画の中では「多核連携型都市構造の地域交流拠点」として位置づけられている。 ・ 駅周辺地区には、駅の南側に主要な施設として金融機関等が分布している。 ・ 駅南側の幹第 42 号線には 5 系統のバス路線の停留所が 4 箇所整備されている。その他は、タクシープールや自家用車停車場などの交通結節機能は有していない。なお、タクシーについては駅前広場から約 50m 離れた場所にタクシー乗り場がある。 ・ 駅北側は、J R 網干駅前土地区画整理事業が進められており、今後駅前広場が整備される。	

地区特性
【バリアフリーから見た主な現況と課題】 ① 鉄道駅 ・ 駅舎はバリアフリー化が進められており、駅構内におけるエレベーターや幅広改札口、バリアフリートイレ、ホーム端の転落防止柵等の整備が完了している。 ・ 橋上駅に併設して自由通路が整備されており、駅北側及び南側へは階段やスロープでの移動となっていた。スロープは、勾配が急で踊り場もなく、車いす利用者が自力で移動できる構造ではないが、平成 22 年度（2010 年度）に南北にエレベーターが整備され、バリアフリー化が図られている。 ・ 視覚障害者誘導用ブロックの連続的な敷設や、階段の段を容易に識別できる整備が課題である。 ② 駅前広場（南側） ・ 鉄道駅からバス停留所の場所が分かりにくく、駅自由通路に簡易的な案内サインが設置されているが、誰もが認識できる大きさの案内サインの整備が課題である。 ・ 身障者乗降場の整備が課題である。 ③ 道路（南側） ・ バス停留所付近では歩道も狭く、ベンチや標識の設置場所を検討する必要がある。

JR網干駅周辺地区【関連事業計画】

J R 網干駅前土地区画整理事業		資料：区画整理課 H P
整備の目標	本地区は、姫路市の西の玄関口である J R 網干駅の北側に位置しています。 この事業は、都市計画道路龍野線の整備に合わせ、都市計画道路網干線、都市計画道路網干駅北線および駅前広場を整備することにより、J R 網干駅北側と都市計画道路龍野線のアクセスを確保するとともに、土地区画整理事業により都市基盤整備を行い、併せて宅地の利用増進を図ることにより、都市機能と生活環境の調和した良好な市街地の形成を目指します。	
施行者	姫路市	
施行区域面積	5. 0 ヘクタール	
減歩率	18. 03% (公共 18. 03%)	
施行期間	平成 25 年（2013 年）10 月 4 日～令和 13 年（2031 年）3 月 31 日	
都市計画決定	平成 25 年（2013 年）3 月 5 日	
事業計画決定	平成 25 年（2013 年）10 月 4 日	
事業計画（第 1 回変更）	平成 27 年（2015 年）8 月 28 日	
事業計画（第 2 回変更）	令和 2 年（2020 年）6 月 26 日	
事業計画（第 3 回変更）	令和 6 年（2024 年）8 月 7 日	

JR網干駅周辺地区【現況図】

